

2 上小地域の発展方向

上田市・東御市・長和町・青木村

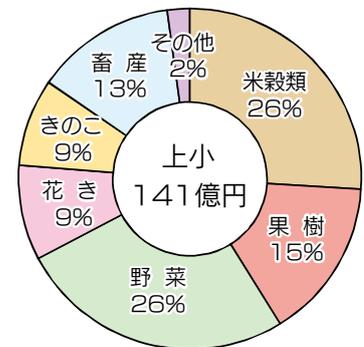
～ 人・歴史・風土が紡ぐ豊かな上小農業 ～

地域農業・農村の概要

農業・農村の特色

- 上小地域は、耕地が標高 420m から 1,300m に立地し、年間降水量が 860mm程度と少なく、全域にわたり多様な農業が展開されています。平成 22 年の農業産出額は 141 億円で、この 10 年間で 26%減少しました。
- 経営規模の小さい農家が多く、自給的農家の割合は県平均を 11 ポイント上回る 58%で、農業就業人口に占める高齢者（65 歳以上）の割合も県平均より 6 ポイント高い 73%となっています。
- 上小地域の耕作放棄地率は、農地面積の 4 分の 1 に迫る 23%と県平均に比べ 5 ポイント高いほか、野生鳥獣による被害も依然として高いレベルにあります。
- 自然的、社会的条件に恵まれ、新規就農希望者が増えています。
- 混住化が進む中で、農産物直売所の売上増加など地場産農産物への関心が高まっています。
- 東御市のワイン特区取得などワインへの関心が高まっており、地域活性化の起爆剤として期待されています。

平成 22 年度
農産物産出額の割合
(地方事務所推計)



めざす将来ビジョン

- 豊富な日照と雨が少ない気候や標高差、首都圏に近い立地等を活かして、意欲ある農業者が生産する米やレタス、ぶどう等の特産農産物が、オリジナル性、品質、新鮮さ、安全性等により多くの人々から高く評価され、魅力ある農業が展開されています。
- 企業的農業経営を実践する経営体は、農地を集積し、新たな品目・技術の導入や販路の開拓に取り組むとともに、地域の雇用を生み出し、次代を担う後継者の育成に取り組むなど地域農業の発展にも貢献し、夢の実現をめざして頑張っています。
- 地産地消の担い手である定年帰農者や女性などの多様なグループが、小規模ながらも農地を効率的に活用して、新鮮さ、安全性といった顔の見える農産物や加工品づくりを通じて、自らの生きがいづくりに加え、食料の安定供給と地域活性化に貢献しています。
- 起伏に富んだ地形や優れた景観の中に整備された田園は管理が行き届き、意識の高い農業者による環境に配慮した農業が展開され、生産現場から消費者の食卓まで安全・安心を保障する農産物供給が実現しています。
- 恵まれた自然景観の中で営まれている農業及びその関連産業である農産物直売所やワイナリー等を地域独自の資源と捉えるとともに、農作業体験や地域の食文化の活用を通じて、地域内外から訪れる交流者が高い満足度を得られるような取組が、農業者や観光事業者などの協働により実践されています。



重点的な取組方向

重点戦略1 多様な担い手による魅力ある農業の展開

小規模零細経営が多い上小地域にあって、大型経営体や集落営農等が成長し、農地の集約化が図られるとともに、新規就農希望者が増加していますが、担い手の高齢化が進んでいることから、定年帰農者や女性グループ等の多様な担い手が多種多様な農産物を生産し、地域農業を支えていく体制づくりが必要です。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□ 40歳未満の新規就農者数 (単年度)	10人	20人
□ 企業の農業経営体への発展を促進する経営体数	414経営体	471経営体
□ 担い手への農地利用集積率	30%	43%

推進方策

- 支援チームの巡回指導等による、人・農地プランの作成と実現に向けた取組への支援
- 里親制度やJA子会社による新規就農者の育成及び農業後継者等の円滑な経営継承支援
- 企業の農業経営体をめざす農業者の確保と資質向上及び円滑な経営継承等の促進
- 農地の利用集積による規模拡大と面的集約による効率的な農業経営の推進
- 定年帰農者や女性グループ等多様な担い手の組織化、技術力向上等への支援



【農業生産法人の大規模そば栽培】

重点戦略2 実需者ニーズに対応した米・畜産物等の供給

消費者と結びついた販売力の強化を図るため、実需者ニーズに対応した米・麦・大豆等の供給、付加価値の高い畜産物の生産が求められています。

また、古くからの良質米地帯を支えてきた歴史あるため池や用水路がみられるなど、農業用水の確保に苦心してきた地域であり、少雨地帯に不可欠な農業用水の安定供給が重要となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□ 環境にやさしい米づくりの面積	231ha	324ha
□ 麦・大豆・そばのオリジナル新品種普及面積	3ha	75ha
□ 農業用水の安定供給が確保される農地面積	1,130ha	1,600ha

推進方策

- 需要に対応した米生産、原産地呼称管理制度認定米や信州の環境にやさしい農産物認証等の取組面積の拡大
- 実需者ニーズに対応した麦・大豆・そばの県オリジナル新品種の生産振興
- 付加価値の高い畜産物の生産振興
- 高病原性鳥インフルエンザ・口蹄疫等の防疫体制の強化
- 農業水利施設の機能維持と計画的な整備



【上小は古くからの良質米地帯】

重点戦略3 立地条件を活かした高品質な農産物生産

標高 420 m から 1,300 m までの標高差、年間降水量 860mm の少雨多照な気候、首都圏に近いなどの立地条件を活かして、果樹、野菜等の高品質な農産物が生産されています。

野菜は、かつてはきゅうり、トマトなど果菜類の産地として高く評価された時代もありましたが、高齢化や担い手の不足、混住化の進行等により園芸作物の生産が減少しており、新品目・オリジナル品種等の導入、環境にやさしい農業への取組等による産地の再構築が求められています。

果樹については、くるみ等の特産果樹が注目されている一方で、担い手対策として樹園地の円滑な継承が課題となっています。

達成指標	現状 (H22)	目標 (H29)
□果樹オリジナル主要品種の栽培面積	56ha	129ha
□りんご新しい化栽培面積	0.2ha(H23)	10ha
□販売額1億円以上の野菜品目数	6品目	7品目
□りんどうの切花本数	58万本	135万本
□信州の環境にやさしい農産物認証面積	182ha	280ha
□生産者GAPに取り組むJA生産部会・農産物直売所数	5件	18件

推進方策

- 新しい化栽培の普及による「りんご3兄弟」などオリジナル品種の生産拡大
- 生産の意向確認、農地利用調整等による樹園地継承の仕組みづくり
- ナガノパープル、シャインマスカット等の無核品種への転換促進
- 適正かん水等によるぶどう裂果防止技術の普及
- 地域特産果樹としてのくるみの生産拡大
- 標高差を活かした出作の推進によるレタスの長期出荷体制の確立
- 施設化、かん水施設導入、茎枯病対策等によるアスパラガスの生産拡大
- ブロッコリー・ズッキーニ等の生産拡大による新たな野菜産地づくり
- 優良品種「青嵐丸」等の導入によるりんどうの生産拡大
- 優良苗や栽培施設整備等によるトルコギキョウ抑制作型の生産拡大
- エコファーマー、信州の環境にやさしい農産物認証の取得促進
- ワーキンググループによるJA生産部会・農産物直売所における生産者GAPへの取組の普及促進



【東御のシャインマスカット】



【標高差を活かしたレタス生産】



【りんどう「青嵐丸」】



重点戦略4 農村資源の活用による地域の活性化

上田市という消費地を抱え、特色ある農産物直売所や女性グループが運営する農産物加工施設等が競い合い、高齢者や女性等様々な担い手により小規模ながら顔の見える個性豊かな農業が展開されています。

また、中小ワイナリーの 신설など、ワイン産地として知名度が高まっています。今後は、学習旅行等と結びつけた農村体験交流など、農村資源を活用する取組が求められています。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□常設農産物直売所の売上高 (13 か所)	11 億円	15 億円
□都市農村交流人口	26,235 人	32,000 人
□六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0 件	7 件

推進方策

- 栽培講習会等による農産物直売所の魅力向上
- 地元の観光事業者、給食事業者等と結びつけた「おいしい信州ふード（風土）」の利用拡大
- 農産物直売所、ワイナリー等の地域資源を活用した交流人口の増大
- 国内外の若者との交流を通じた農山村の活性化
- 地域資源を活用した加工品の品質向上・販路拡大支援等による6次産業化の推進
- 実需者ニーズを的確に把握した契約取引を行う産地づくりの推進



【活気あふれる農産物直売所】

重点戦略5 安全・安心で住みやすい農村環境づくり

過疎化や高齢化、混住化により農家人口が減少している集落では、コミュニティ活動への住民の参加が減少し、農地や農業用水などの地域資源の保全が困難になりつつあります。

また、中山間地域を中心に、依然として野生鳥獣による農作物被害や耕作放棄地の発生等が見られており、農村環境の悪化が懸念されています。

達成指標

	現状 (H22)	目標 (H29)
□農地や農業用水の保全に取り組む面積	1,966ha	4,632ha
□野生鳥獣侵入防止柵の設置延長	63km	220km
□遊休農地の再生・活用面積 (単年度)	29ha	50ha

推進方策

- 集落機能の維持・発展のための共同活動の推進
- 農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進
- 侵入防止柵の設置など地域ぐるみの総合的な鳥獣被害防止対策の実施
- 広域支援チームによる遊休農地解消に向けた支援体制確立
- 地域の重要な水源であるため池の整備・防災対策
- 中山間地域での集落営農組織の育成及び営農継続に向けた体制整備への支援



【稲倉棚田での農作業体験】